

フランス語 (A) 〈J05A〉

配当年次	1 年次
授業科目単位数	2
科目試験出題者	相田 淑子
文責(課題設題者)	相田 淑子
教科書	指定 大木 充・西山 教行 他 [改訂版]『グラメール アクティヴー文法で複言語・複文化ー』(朝日出版社)

*中大生協でのみ購入可能。

《授業の目的・到達目標》

目的……フランス語それ自体への興味関心をもとに、専門分野への助けとなる語学レベルの力を付けること。

到達目標……具体的な到達目標は、フランス語の初級(実用フランス語検定 4 級程度)である。

《授業の概要》

フランス語 (A) は「文法」を中心に扱います。文法だけでフランス語が出来るようになるわけではありません。しかし文法の体系的な知識は、(特に大人が) 外国語を身に付ける上で有益です。さらにフランス語の文章を正確に読み取るためには文法は必要不可欠です。「文法」の基礎的な知識をしっかりと身に付けて、専門に役立つ「語彙」を増やすことは、専門書の読解そして教養分野での読書にも有効です。フランス語学習を通して知識と教養を深めましょう。

Ce qui n'est pas clair n'est pas français. 「明晰でないものは、フランス語ではない」。これはリヴァロルという人の有名な言葉です。始めは複雑に見えるフランス語の文章も、最後には極めて論理的であることを皆さん自身が知ることになるでしょう。

フランス語 (A) の教科書に準拠した web サイトがあります。自律学習が可能になっています。下記の QR コードでアクセスして、「改訂版 グラメール・アクティヴー」を選択してください。このフランス語 (A) の教科書と同じ内容を対話形式で学びやすくしてあります。練習問題も豊富です。イラストもきれいで可愛いので、是非、楽しんで利用してください。フランス語 (B) ともうまく関連づけて学習すると良いでしょう。



《学習指導》

「語彙」について: テキストの各課冒頭にあるフランス語の文章は、現代フランスの諸問題を簡易なフランス語で表現しています。是非、基本的な単語と共にここに出てくる専門用語を覚えてください。「レポート課題」にも役立つはずです。

「発音」について: 語学においてとても大切なものが、発音です。確かに通信教育の場合、どうしても自己流になりやすいかもしれません。しかし、フランス語は「発音の規則」を覚えれば、英語以上に発音し

やすい言語です。付属の CD を教科書を開いて聞くのも良いですが、前述した web サイトの各課にある映像付きの発音練習を視聴して「発音の規則」をしっかりと覚えましょう。

※「フランス語 (A)」指定教科書の練習問題の解答は、Cloud Campus に掲載しています。

WEB 通信教育部ホームページ

▶在学生▶ Cloud Campus ▶【公開教材】PDF 教材▶指定教科書 解答集〔履修者用補助教材〕内の「フランス語 (A)」

《成績評価》

試験（科目試験またはスクーリング試験）により最終評価する。

フランス語 (A) 〈J05A〉

◎課題文の記入：不要（課題記入欄に「課題文不要のため省略しました。」と記入すること）

◎字数制限：なし

第1課題

問1 動詞 Être について、1. ～ 5. の活用とその動詞を使った一作文（和訳付）を例にならって書きなさい。

例）条件法現在（活用） Je serais, tu serais, il serait, elle serait, nous serions, vous seriez, ils seraient, elles seraient.

（作文） Elle serait là. 彼女はそこに居るかもしれません。

1. 直説法現在
2. 直説法複合過去
3. 直説法半過去
4. 直説法大過去
5. 直説法前未来

問2 次のフランス語の文章を日本語に訳しなさい。

Dans quelques années, l'exploitation de l'énergie du vent et de la mer remplacera probablement celle du pétrole. Cela donnera un nouvel élan à la France des DOM-TOM. En effet, la Martinique, la Réunion ou Mayotte par exemple, couvrent un vaste espace maritime. Ce sera un atout important dans l'avenir.

第2課題

次の文章を日本語に訳しなさい。

Pourquoi la démocratie, considérée non pas comme forme de gouvernement (ou d'exercice de pouvoir), mais plutôt comme forme de société, ne prend-elle pas facilement dans l'archipel nippon et, d'une manière plus générale sans doute, en dehors de l'aire culturelle européenne, au demeurant fort restreinte, où elle est née d'elle-même et spontanément ? La question de la langue a certainement une part prépondérante qu'on a trop longtemps ignorée ou sous-estimée. Car, selon la leçon de Rousseau, la langue se façonne en fonction des besoins de la société. Mais il me semble que l'auteur de l'Essai ne dit ici que la moitié de sa pensée : la langue façonnée sert en retour à maintenir ou à figer la société dans la structure qui a commandé sa formation, et que l'une et l'autre sont dans un rapport de détermination ou de dépendance réciproques.

〈推薦図書〉

大賀 正喜（編集代表）	『プログレッシブ仏和辞典』〔第2版〕（2008年）	小学館
大賀 正喜	ポケプロ仏和和仏（スマートフォンアプリ）	小学館